奈文研ニュース
2005.Sep No.18
NARA CULTURAL PROPERTIES RESEARCH INSTITUTE
独立行政法人 文化財研究所
奈良文化財研究所
〒630-8577 奈良市二条町2丁目9-1
http://www.nabunken.jp

東アジアの古代苑池

ー飛鳥資料館秋期特別展示ー 10月22日～12月11日

奈良文化財研究所は、2001年に中国陝西省西安市に所在する唐長安城大明宮太液池遺跡を対象とした中国社会科学院考古研究所との共同調査を開始し、本年度はその最終年度にあたります。また、近年、飛鳥京跡の苑池遺構や内郭中枢における苑池の発見、平城宮東院庭園の発掘調査報告書の刊行など、古代の苑池をめぐる調査成果が蓄積されています。

本展覧会では、日中共同研究である太液池遺跡の共同調査の成果の一端をいち早く公開したいと考え、東アジア諸国(唐、新羅、渤海、日本)において７～８世紀につくられた古代苑池に関する最新の調査成果を含む展示をおこない、苑池からみた古代東アジアの文化交流・伝播について考察を加えます。

主な展示品としては、太液池遺跡出土遺物、中国河南省洛陽市上陽宮園林遺跡出土遺物、中国黒龍江省寧安県東京城遺跡出土遺物(東京大学所蔵)、奈良県明日香村飛鳥京跡苑池遺構出土遺物(奈良県立橿原考古学研究所所蔵)、平城宮東院庭園出土遺物があげられます。このうち、太液池遺跡と上陽宮園林遺跡出土のものは、中国社会科学院考古研究所の所蔵品で合計54点にのぼります。唐三彩壺・枕、緑釉瓦、飾金具、石像など多様な遺物は、いずれも過去に雑誌や講演などで紹介されただけで、実物の展示は本邦初となるものです。また、東京城遺跡とは渤海の都城であった上京龍泉府跡のことです。このほか、韓国慶州市に所在する雁鴨池遺跡や龍江洞苑池遺跡についてもパネル展示をおこないます。

展示品の１つ　大明宮太液池遺跡出土石象

激動の時代であった７～８世紀に東アジア諸国で相次いでつくられた苑池、そして、その頂点にあったともいえる唐の太液池、それらは水面に何を映していたのでしょうか。

当館学芸室では、昨年末に当時の町田章館長からの提案を受けて以来、実施にむけての作業をおこなってきました。とはいえ、現在の学芸室のスタッフにとっては、海外の資料を借用して展示することは未経験のことでしたので、途方にくれることもありました。しかし、パートナーの中国社会科学院考古研究所、所蔵品や写真資料をお貸しくださった橿原考古学研究所・東京大学・韓国の国立慶州博物館・嶺南文化財研究院、そして奈文研他部署などの皆様のご協力によって、なんとか前進してまいりました。本当に感謝しております。

それでは、皆様、飛鳥の地でお待ちしております。

(飛鳥資料館　加藤 真二)

「東アジアの古代苑池」

2005年10月22日～12月11日(会期中は無休)

主催:飛鳥資料館・中国社会科学院考古研究所・中国文物交流中心・明日香村

後援:朝日新聞社

特別講演会:10月23日(日)午後１時30分～ 飛鳥資料館講堂

「唐・二都発掘物語ー長安と洛陽ー」

講師

中国社会科学院考古研究所研究員　陳 良偉

平城宮跡発掘調査部研究員　今井 晃樹